

## 方針に盛り込みたい内容(これまでの委員会の主な意見)

### 方針に盛り込みたい内容①

#### これまでの意見

##### #視野に入っていなかった人、顧みられていない人

- 文化を考えるとときには市民一人ひとりが輝くべきということを根本に据えるべきだ。市民一人ひとりが輝いてこそ、武蔵野市が輝く。そうすると、特定の人だけでなく、市民一人ひとりが恩恵を受けるべきだと思う。(花田)
- これまで市の事業は関心のある人を対象としてきたと思うが、これまで視野に入っていなかった人をフォローしていくことは大事だ。(第1回・小林)
- 「省みられていない人」を文化事業の対象にした方がよいということである。文化の光が当たらない、チャンスに触れられていない人にも光を当てるような施策を考える必要があると思う。(第2回・花田)

##### #文化へのアクセシビリティ

- あらゆる市民にとって鑑賞・体験の機会をつくろうとするならば、無料ないしは安価で鑑賞・体験ができることが必要だと思う。高齢者や障害者などだけでなく、その人たちの介護・介助をしている人への補助についても考えたい。(酒井)
- 文化芸術関係はアクセシビリティに関する議論が広がっており、障害者の芸術活動推進法案も提案されているので、福祉団体とも連携してアクセシビリティに取り組んではどうか。(高萩)
- 高齢者や障害者が、トイレの設備や車椅子で行っても問題ないかなどの精神的な壁を感じることなく鑑賞・参加できる方が重要であると思う。(第2回・酒井)

##### #あらゆる市民に届ける方法

- あらゆる市民に貢献できているのだろうかと自問することがある。どうすればあらゆる市民に届くのか、そのことを考えないといけないと思っている。(青木)
- 鑑賞事業の客層を広げようとするのであれば、客層にあわせて料金体系を柔軟にすればよいのではないか。(花田)
- アクセスしやすいコミュニティセンターの活用も考えられるとよいのではないか。(…)市が運営組織に文化事業を行うように打診してみてもどうか。(酒井)

##### #対象を絞る

- 「あらゆる市民」といっても、対象を具体的にイメージする必要があるはずだ。行政としてはあまねく人たちをフォローする必要があると思うが、ある時期は特定の対象に注力するという手法があってもよいと思う。それが武蔵野市の特徴になる。(若林)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

## 方針に盛り込みたい内容②

### これまでの意見

#### #ワークショップと体験の質、評価の尺度

- 全体的に文化を鑑賞する事業が多く、ワークショップや市民が発表できる機会が少ないように感じた。質の高い事業を鑑賞することもよいことだとは思いますが、ワークショップのような地域の個性が出る事業はもっと充実させてもよいのではないかと。(第2回・富島)
- 参加型であればよいわけではなく、クオリティの高いワークショップを提供するべきだ。(…)そのためには、行政がワークショップのクオリティを測る尺度を持っていなければいけないと思う。(小川)
- 市に関係するアーティストと一緒にやればよいと思う。クオリティの低い参加型の事業はやらない方がよいが、武蔵野市とかかわりのある人でクオリティの高い事業をできる人はいるだろう。(高萩)

#### #体験や創造は誰が求めているのか

- 本当に必要としている人はどのような人たちで、どれぐらいいるのか。そのことを考えた方がよいのではないかと。(木本)

#### #市民によるアクション

- 「鑑賞・体験」という言葉は、受け身になってしまっていてアクティブにはなれないように思う。「提案」や「発表」という活動もあるはずで、市民のアクションが生まれるような機会をつくるのもよいのではないかと。(若林)
- 公的に機会をつくるのが想定されていると思うが、むしろ市民が企画提案する機会も増やして欲しいと思う。その方が、市民が本当に参加したいと思う機会がつけられるのではないかと。(若林)

#### #体験してからのプロセス

- 入口を体験するだけのものが多く、体験の次の展開をつくれていない場合が多い。(小林)
- 団体に属さなくても、個人が発表できる機会がたくさんあるとよいと思う。そのような参加の機会を行政がつくるとよいと思う。(花田)
- 伝統芸能などは流派に属さなければ体験もできないが、その前の段階をつくっていく方がよいという意見だと理解した。(小林)

#### #子どもが主体的で自由に創造できる機会

- 学校では子どもが受け身になっているという意見があったが、学校でこそ体験的な取組を行えるとよいと思う。(酒井)
- 子どもについては、機会を与えてもらっているが、子どもがやりたいことを自由にできる場所や機会はない。そのような場について議論したい。(第1回・木本)
- 子どもの文化体験が、体験キット化しているため、順調に進んでいるようだが、意欲、関心を持たせるのは難しい。子どもが自分なりに思い切り取り組み、「自分事」として文化をとらえられるようになるとよい。(第1回・宮崎)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

### 方針に盛り込みたい内容③

#### これまでの意見

##### #自由に集まり、自由に自分のしたいことができる場

- 行きたいときに行けて、やりたいことが自由にできる場所があるといい。そのような場で若いアーティストを育てることも考えられるとよいし、そこで子どもとアーティストが交流すれば、お互いに刺激を受けたりするだろう。(木本)
- ニーズが多様化しているなかで今後行政が行うべきことは、市民が集まる場をつくることになると思う。その場が集まった市民が自発的に文化をつくるという考え方で、行政は「場を準備する」という側面支援をすればよい。(花田)

##### #コミュニティが生まれ、文化が生まれる

- 場所とコミュニティがあれば自発的に創造していけると思うので、やはり場所があるとよい。(木本)
- 場所があり、文化を生み出すものがある。そして人が集まり、文化が生まれていく。(花田)

##### #アーティスト・作家との交流

- 文化の担い手の育成というと、市内商店街のギャラリーで武蔵野美術大学の学生が作品を制作し、展示するという取組があったと記憶している。近所の小学生が、学生が制作している様子を見に集まっていたが、文化・芸術の制作現場を直接見ることは、子どもにとっても有益だろうと思った。(酒井)

##### #身近にあること

- とにかく近所であってほしい。身近にあることが大切だと思う。(木本)
- 身近に文化に触れられる場所があるとよいという意見があったが、市内に自転車専用道路があればアクセスがしやすくなるのではないか。(酒井)

##### #活動を促す専門家の必要性

- ハードがそろっていても、有効活用するための知識を持つスタッフが配置されていないといけない。子どもが飽きずに取り組むためにも、専門のスタッフがサポートしていけるとよいと思う。(酒井)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

## 方針に盛り込みたい内容④

### これまでの意見

#### #市民によるアクション

- 「鑑賞・体験」という言葉は、受け身になってしまっていてアクティブにはなれないように思う。「提案」や「発表」という活動もあるはずで、市民のアクションが生まれるような機会をつくるのもよいのではないか。(若林)
- 行政が自ら何かをやるのではなく、地域の団体に向けて、武蔵野市が文化を盛り上げたいと宣言してしまってもよいのかもしれない。アイデアやノウハウを持っている団体は勝手にやってくれるだろうから、行政はそれを応援するとよい。その流れができてしまえば、色々な出来事が自発的に起きていくのではないか。(木本)
- 民間の取組を応援してくれる機会があれば文化的な事業が立ち上がる機会も増えると思う。民間にはパワーのある人たちもいるので、そのようなエネルギーを活かしていけるとよい。一方、公的な施設が十分に利用されていないため、活動する人と施設を結びつけることも応援になると思う。(第2回・木本)

#### #ノウハウのある担い手とつながる

- 市民やNPO、作家・アーティストなど、いろいろ担い手が出てきたが、そこでの連携が重要だと思う。行政だけでは難しいと思うし、つまらないと思う。創造の機会や場づくりのノウハウは、行政の外側にあると思うので、それを活かさないといけなと思う。市内の担い手についてリサーチしてはどうか。(富島)
- アートNPOのような創造に関わる主体も登場していない。発表・活動の場は取り上げられているが、アートプロジェクトを実施しようとしている市民や学生、大学との結びつき等、積極的なマネジメントも含めた活動も取り上げられるとよいと思う。(第2回・若林)

#### #民間と行政の双方のメリット

- 行政だけが連携したいと思っているかもしれない。一方的な思いで終わらないように、連携先となる団体の意見やニーズも聞いた上で検討した方がよいと思う。(花田)
- 連携にあたっては、行政のメリットやニーズばかりを主張するのではなく、相手のニーズを聞く必要がある。(若林)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

## 方針に盛り込みたい内容⑤

### これまでの意見

#### #行政がアーティストを育てる難しさ

- 若手アーティストの育成という話もあったが、行政が育てるとなると税金を使うので、市民の了解を得ることが必要になる。市民が「この人を応援したい」という思いを持たないと難しいだろう。(酒井)
- 行政が担い手育成に関わろうとしたときに、本来文化が持つ自由さが損なわれるのではないかと気になるところもある。堅苦しいものにならないようにしなければいけない。(青木)

#### #行政の外側に委ねる

- 文化の担い手育成は行政ではできないと思う。誰を育成するのも選ぶことができないと思う。行政だけが抱え込まずに、行政の外側で担っていくこともできるのではないか。(小川)
- 民間に任せる方がよいと思う。行政は「新しい文化」を設定できない。行政や一般の人々の想像をはるかに超えるようなものでないと新しい文化としてのインパクトは持ちえない。行政ができることは、そのような新しくインパクトのあるものが生まれる土壌づくりでありそうした活動の支援だろう。(若林)

#### #育てるべきはマネジメントができる人材

- どちらかというとマネジメント・プロデュースができる人材を育てる方がよい。新しいアーティストを発掘・育成できる人が市内に根付けば、新しいアーティストも育つことになる。(若林)
- 武蔵野市には何かをやりたいと思っている人、さらに何かをできる人は多い。そういう人は市外で活動していることが多いが、そのような人とつながって、市内でアクションすることをおもしろいと思ってもらえるとよいと思う。行政の外側で、そのようなマネジメント的な動きができる人がいれば活性化していくだろう。(小林)

#### #ノウハウのある担い手とつながる

- 市民やNPO、作家・アーティストなど、いろいろ担い手が出てきたが、そこでの連携が重要だと思う。行政だけでは難しいと思うし、つまらないと思う。創造の機会や場づくりのノウハウは、行政の外側にあると思うので、それを活かさないといけないと思う。市内の担い手についてリサーチしてはどうか。(富島)
- アートNPOのような創造に関わる主体も登場していない。発表・活動の場は取り上げられているが、アートプロジェクトを実施しようとしている市民や学生、大学との結びつき等、積極的なマネジメントも含めた活動も取り上げられるとよいと思う。(第2回・若林)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

## 方針に盛り込みたい内容⑥

### これまでの意見

#### #武蔵野らしさをつくる

- 文化一般を提供するのではなく、武蔵野らしさがないといけない。武蔵野市民は市内で鑑賞や活動をする必要がないので、武蔵野市らしさをつくり、行政として提供していかないといけない。(高萩)
- 新しい作家や作品を事業として打ち出すことは土壌といえるのではないか。それを武蔵野市らしさと考えてもよいと思う。(小林)
- 様々な取組をしているものの、事業全体での統一感がないように感じた。武蔵野として何をやりたいのか。全体的には、武蔵野らしさがあるのであれば、それを伸ばせばよいし、ないのであれば方針の検討のなかでつくっていけるとよいと思う。(第2回・高萩)

#### #行政は「新しさ」をつくれぬ

- 民間に任せる方がよいと思う。行政は新しさを設定できない。新しさは、一般の人々の想像を超えていかないといけない。行政ができることは、機会づくりと支援によって、そのような新しくインパクトのあるものが生まれる土壌づくりだけだろう。(若林)【再掲】

#### #既存の文化を残し、活かす

- 文化は、昔からあるものだと思うからこそ大切にされるのかなと思う。ただ、武蔵野市には伝統的な文化がないから、何をすればよいか困るのかもしれない。新しい文化が論点だが、古いものを応援する方向があってもよいと思う。(木本)
- 可能性を感じるのは井の頭公園なので、その周辺に拠点をつくってもよいかもしれない。井の頭公園文化をつくってみてもよいのではないか。(高萩)

#### #文化が生まれるまちの雰囲気をつくる

- まちの雰囲気が文化的になり、それが刺激となって文化が自ずと生まれてくるのではないか。武蔵野市も、市民が文化的に触発される雰囲気をつくるとよいと思う。それが発信の源になるだろう。(青木)

#### #文化以外の領域から文化が生まれる

- ちょうど30～40歳代ぐらいのマンション住まいの人たちが、まちづくり活動や防災活動を通してまちに馴染んできていると思う。そのような活動が文化になっていくとおもしろい。クリーンセンターでもアーティストを呼んで事業実施しているが、全く別、無関係と思われるところから文化が生まれるのではないか。(酒井)

○方針の骨子案～上記の意見をまとめる一文をご検討ください

## その他:文化の必要性

---

### #文化の必要性について考えるべき

- 本当にあらゆる市民が文化を鑑賞・体験したいと思っているのか。そのような実感はない。鑑賞・体験の機会を増やすだけでなく、「文化が市民にとって必要なのか」ということを考え、議論する機会を設けるべきだ。市民が、文化を自分事として考える必要がある。(小川)
- たとえば2021年に武蔵野市がアートセンターをつくることを掲げて、アートセンターのあり方について市民がいっしょに考える機会をつくる必要があると思う。(小川)

### #誰が文化を求めているのか

- 文化が必要かどうかを話し合っていくなかで、無意識に文化に触れてきた人たちも改めて自覚できるのではないか。機会や場をつくる前に必要性について話す場を設けるのはよいと思う。(酒井) 【再掲】

### #誰が文化を求めているのか

- 体験・創造の機会を求めている人は、どのような人たちなのか。対象を考えた方がよい。(木本) 【再掲】

### #つくる文化に対する価値観

- 武蔵野市として収めべき価値を設定するべきだ。その設定に際しては、行政だけでなく、民間や商店街などと協議して、何を中核に据えるかを議論するべきだと思う。その価値を少しずつ高めていけばよいのだと思う。(花田)